

### 建設機械産業の現状と今後の予測

#### 1. はじめに

当業界は、100年に一度と言われる世界同時不況となった2009年度から一転、2010年度にはV字回復した。2011年度も内需は震災復興の需要、外需は新興国、資源開発国向けの需要を中心に好調に推移した。2012年度は、内需は震災復興需要等で継続的に良かったものの、外需は世界的な景況の悪化から減少に転じた。2013年は震災復興の本格化、排ガス規制継続生産猶予期間終了前の旧規制機の需要増で再び2011年度並みに回復した。2014年度は国内に一部機種に反動減が見られたが、輸出が好調に推移し、2年連続で増加したものの、2015、2016年度は輸出が反動減となり、2年連続で減少となった。北米等の需要が好調であることから、2017、2018年度は輸出が再び大きく増加し、2年連続で増加したものの、2019年度は一転、全地域輸出が落ち込み、減少となった。

#### 2. 建設機械産業の現状

経済産業省の機械動態統計から建設機械の生産金額の推移を見ていきたい(図-1参照)。

2012年度の総計は、1兆5,747億円で前年比約10%減少し、2005年度と同水準となった。2009年度は、総計が8,000億円を下回り、30数年前の生産金額と同水準まで落ち込んだが、2010年度、2011年度と、そこから大きく回復した。しかし、2012年度は、アジアを中心とした世界的な景況の悪化から一時的に減少に転じたものの、2013年度は、主力機械を中心に国内向けが大きく増加し、再び2011年度水準まで回復した。2014年度は、輸出を中心に続伸したものの、2015年、2016年度は資源開発国や中国向けが減少し、2年連続で減少した。2017、2018年度は再び輸出が大きく増加したものの、2019年は輸出が大きく落ち込んだ。

機種別の詳細は図-2の通り。

次に当工業会の自主統計である出荷金額統計で建設機械産業の現状を見ていきたい。

当工業会設立の1990年度から統計を開始した(図-3参照)。

2008年度のリーマン・ブラザーズ破綻を契機とした世界的な景気低迷により、内外需とも大幅に減少し、2009年度は、前年比43%の減少となった。

しかし、2010年に入ると旺盛な海外需要により、国内出荷は前年比14%増加、輸出が84%増加した。2011年度は、震災復興の需

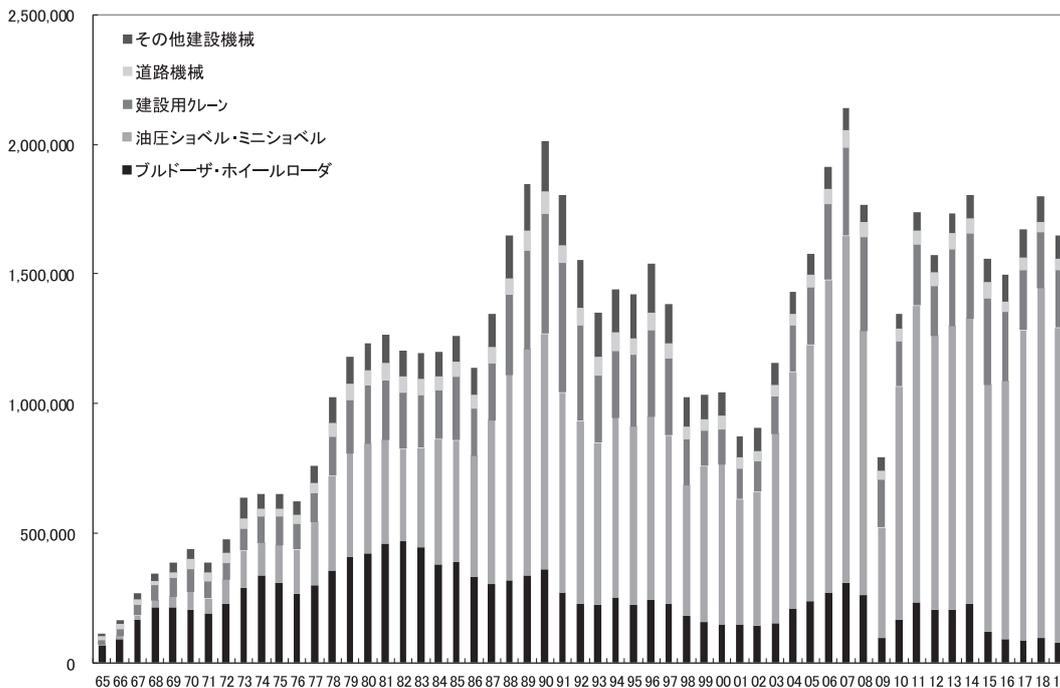
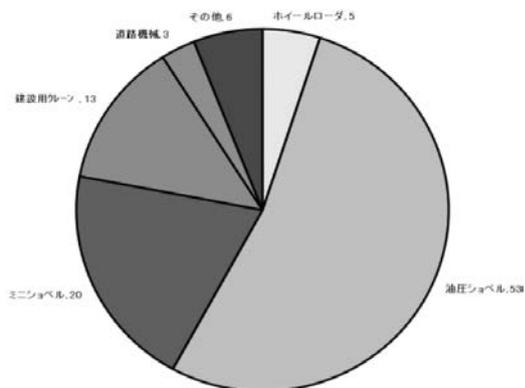


図-1 生産金額推移(総合計)  
出典: 経済産業省 機械動態統計



総額 16,502 億円  
 図一 機種別生産金額構成比  
 出典：経済産業省 機械動態統計

要等で国内出荷は同 34% 増加，輸出は同 17% 増加した。2012 年度は，震災復興の需要等の継続により国内出荷は同 18% 増加したものの，アジアを中心とした景気の悪化から，輸出は同 19% 減少した。2013 年度は，震災復興の本格化や排ガス規制継続生産猶予期間の終了前の旧規制機の需要増などにより，2011 年度水準まで戻った。2014 年度は，国内で一部機種に反動減が見られたものの，輸出が緩やかに回復し，続伸した。2015 年度は，国内の一部機種の反動減の継続，輸出も反動減となり，2016 年度もその傾向が続いた。2017，2018 年度は輸出が続伸し，過去最高の出荷額を記録した。2019 年度は輸出が落ち込んだ。

輸出比率は 2010 年に，最高の 75% を記録した（国内輸出比率は，当工業会が統計を取り始めた 1990 年度と真逆となった）ものの，2011 年度は 72%，2012 年度は 64%，2013 年度は 57% と減少してきている。これは上記の通り，震災復興や排ガス旧規制機の需要増により，国内に機械が多く出荷されたためである。ここ数年 50% 台で推移してきたが，再び輸出にドライブがかかり，2017 年度は 62%，2018 年度は 65% となった。2019 年度は輸出の落ち込みもあり 59% となった。

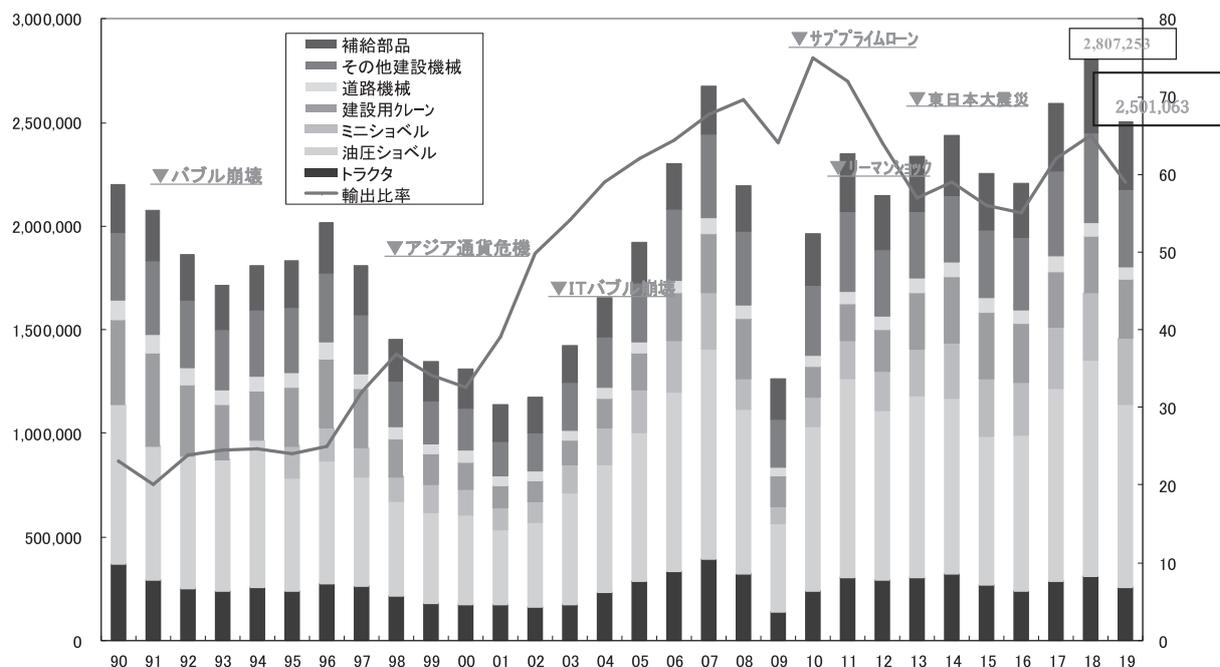
機種別出荷金額構成比は，代表的建設機械である油圧ショベルとミニショベルで 56%，これに主力機械である建設用クレーンとトラクタを足すと主力 4 機種で 8 割の構成比となっている（図一 4 参照）。

また，輸出先では，一時，不動産価格の下落や金融引き締め等の影響を大きく受け中国市場の比率が大きく下がったが，ここ数年 3% 程度で推移している。北米市場の需要が非常に好調，欧州市場も堅調に推移しており，この 2 地域で半分以上の構成比となっている（図一 5 参照）。

2019 年度は，最大輸出先の北米向けが 41% となり，欧州向けは 23%，アジア（中国を除く）向けは 12% と，3 大輸出先で 75% を超えた（図一 6 参照）。

### 3. 今後の建設機械産業の展望

当工業会は 2020 年 8 月末に建設機械産業の 2020 ～ 2021 年度の補給部品を除いた建設機械本体ベースでの需要予測結果を発表した



図一 出荷金額推移（総合計）  
 ※ 10 機種（油圧ショベル，ミニショベル，トラクタ，建設用クレーン，道路機械，コンクリート機械，トンネル機械，基礎機械，油圧ブレード圧砕機，その他建設機械，補給部品）の出荷金額ベース  
 出典：日本建設機械工業会自主統計

統計

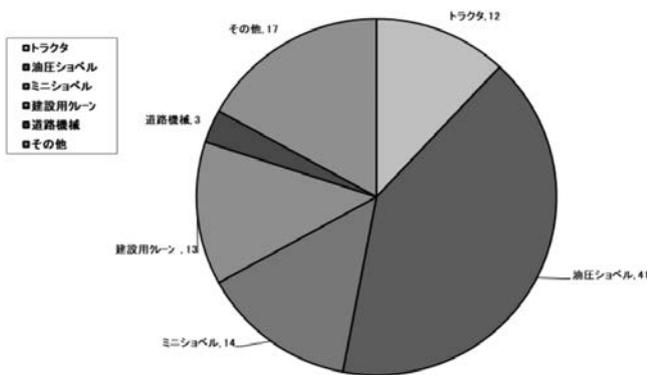


図-4 機種別出荷金額構成比

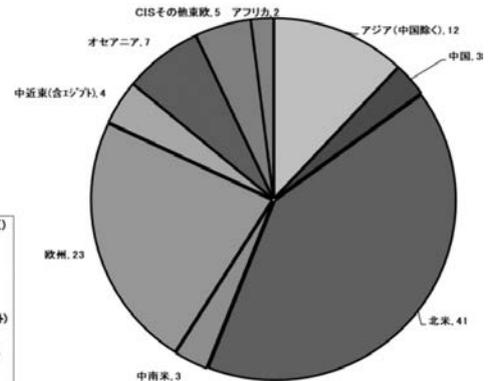


図-5 地域別輸出額構成比

※ 10 機種 (油圧ショベル, ミニショベル, トラクタ, 建設用クレーン, 道路機械, コンクリート機械, トンネル機械, 基礎機械, 油圧ブレーカ圧砕機, その他建設機械, 補給部品) の出荷金額ベース  
出典: 日本建設機械工業会自主統計

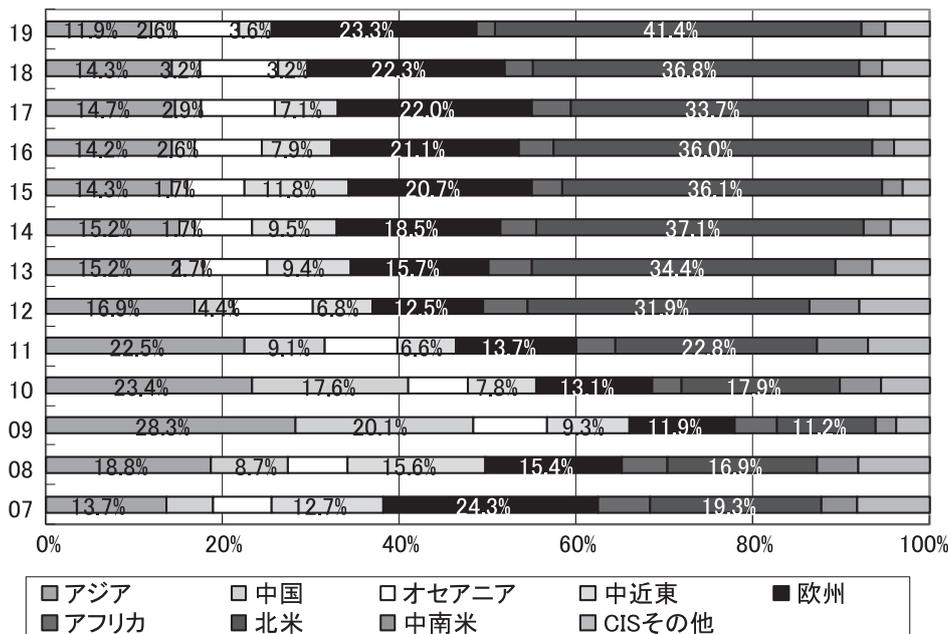


図-6 新車輸出の推移

(表-1 参照)。

国内について2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、上期計では、建設用クレーンの前年同期比15%減少を始め8機種が減少し、4,131億円(前年同期比9%減少)、下期は、主力機種である油圧ショベル、ミニショベル等が回復するも、下期計では、4,341億円(前年同期比2%減少)と予測した。この結果、2020年度合計では、8,472億円(前年同期比5%減少)となり3年振りに減少すると予測した。2021年度は、土工系機械は増加するものの、住宅投資及び民間設備投資の落ち込みにより建築系機械が減少すると予測され、上期計では、4,059億円(前年同期比2%減少)、下期計では、4,360億円(前年同期並み)と予測した。この結果、2021年度合計では、8,419億円(前年同期比1%減少)となり、2

年連続の減少と予測した。

輸出について2020年度は、国内と同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全9機種が減少し、上期計では5,159億円(前年同期比28%減少)、下期は、減少幅は縮小するものの回復には至らず、下期計では、4,847億円(前年同期比14%減少)と予測した。この結果、2020年度合計では、1兆0,006億円(前年同期比22%減少)となり、2年連続で減少すると予測した。2021年度は、3大輸出先(北米、欧州、アジア)を中心に増加すると予測し、上期計では5,711億円(前年同期比11%増加)、下期計では5,303億円(前年同期比9%増加)と予測した。この結果、2021年度合計では、1兆1,014億円(前年同期比10%増加)となり、2年振りの増加と予測した。

# 統 計

表一 建設機械需要予測  
2020年度予測

上段：金額 百万円  
下段：対前年同期比指数 %

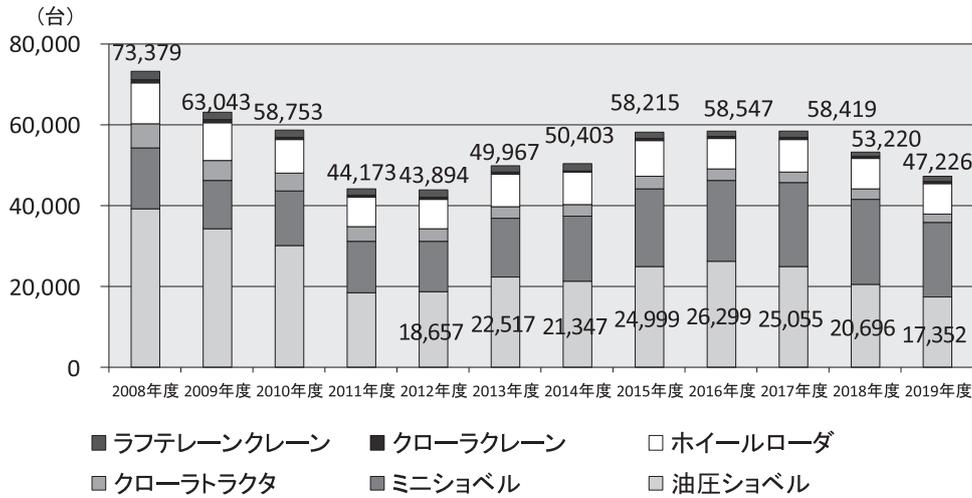
	上期見込			下期予測			年度予測		
	国内	輸出	合計	国内	輸出	合計	国内	輸出	合計
トラクタ	46,600	65,000	111,600	66,800	47,200	114,000	113,400	112,200	225,600
	86	78	81	100	86	94	94	81	87
油圧ショベル	137,800	236,500	374,300	147,400	221,700	369,100	285,200	458,200	743,400
	96	68	76	106	88	94	101	76	84
ミニショベル	43,000	95,400	138,400	41,300	94,300	135,600	84,300	189,700	274,000
	94	77	82	103	88	92	98	82	86
建設用クレーン	91,000	30,600	121,600	81,500	35,000	116,500	172,500	65,600	238,100
	85	72	81	89	82	87	87	77	84
道路機械	18,400	8,800	27,200	22,400	9,600	32,000	40,800	18,400	59,200
	104	78	94	100	98	99	102	87	97
コンクリート機械	14,500	600	15,100	13,400	400	13,800	27,900	1,000	28,900
	91	79	90	90	79	90	90	78	90
基礎機械	19,600	2,400	22,000	16,400	1,600	18,000	36,000	4,000	40,000
	89	82	88	87	82	87	88	83	88
油圧ブレーカ 油圧圧砕機	9,500	3,000	12,500	8,700	3,200	11,900	18,200	6,200	24,400
	90	72	85	86	71	82	88	72	83
その他建設機械	32,700	73,600	106,300	36,200	71,700	107,900	68,900	145,300	214,200
	88	72	76	96	82	86	92	77	81
合 計	413,100	515,900	929,000	434,100	484,700	918,800	847,200	1,000,600	1,847,800
	91	72	79	98	86	92	95	78	85

2021年度予測

上段：金額 百万円  
下段：対前年同期比指数 %

	上期予測			下期予測			年度予測		
	国内	輸出	合計	国内	輸出	合計	国内	輸出	合計
トラクタ	47,500	71,500	119,000	68,800	50,000	118,800	116,300	121,500	237,800
	102	110	107	103	106	104	103	108	105
油圧ショベル	140,600	267,200	407,800	153,300	246,100	399,400	293,900	513,300	807,200
	102	113	109	104	111	108	103	112	109
ミニショベル	44,700	102,100	146,800	43,800	101,800	145,600	88,500	203,900	292,400
	104	107	106	106	108	107	105	107	107
建設用クレーン	82,800	33,000	115,800	75,800	36,400	112,200	158,600	69,400	228,000
	91	108	95	93	104	96	92	106	96
道路機械	18,400	8,800	27,200	22,400	10,100	32,500	40,800	18,900	59,700
	100	100	100	100	105	102	100	103	101
コンクリート機械	13,100	500	13,600	12,300	300	12,600	25,400	800	26,200
	90	83	90	92	86	91	91	80	91
基礎機械	17,200	1,900	19,100	15,300	1,400	16,700	32,500	3,300	35,800
	88	81	87	93	87	93	90	83	90
油圧ブレーカ 油圧圧砕機	8,600	2,900	11,500	8,100	3,200	11,300	16,700	6,100	22,800
	90	97	92	93	100	95	92	98	93
その他建設機械	33,000	83,200	116,200	36,200	81,000	117,200	69,200	164,200	233,400
	101	113	109	100	113	109	100	113	109
合 計	405,900	571,100	977,000	436,000	530,300	966,300	841,900	1,101,400	1,943,300
	98	111	105	100	109	105	99	110	105

統計



図一七 機種別中古車輸出台数推移  
データ出典：財務省貿易統計

ここ数年の輸出シフトへの動きから、先述の通り、2010年度では輸出比率が75%を超えた。震災後、機械が国内に還流し、輸出比率は50%台で落ち着いていたが、2017年度から、再び60%を超えた。しかし一転、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、輸出が大幅に減少し、再び50%台になると予測する。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大もそうだが、世界の状況はドラスティックに動いており、外的要因で状況が大きく変わる局面にあり、先行きは予断を許さない。

国内需要と相関関係のある中古車輸出については、2019年度の実績で、主要6機種（油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ、クローラトラクタ、クローラクレーン、ラフテレーンクレーン）で、約4万7千台が輸出された（図一七参照、ピークは2007年度の約9万5,000台）。

2013年から4年連続で増加、2017年、2018年、2019年と3年連続して減少となった。

この3年で油圧ショベルが約1万台減少しており、中古車輸出の主力機である排ガス2006年次規制機が国内に少なくなってきた可能性がある。2011年次、2014年時規制機は燃料面も含め、取り扱いが難しく、今後数年減少する可能性もある。

状況の変化をしっかりと確認していきたい。

今後も国内の需要を図る上で、中古車輸出台数の推移は重要な資料であるので、継続してウォッチしていきたい。

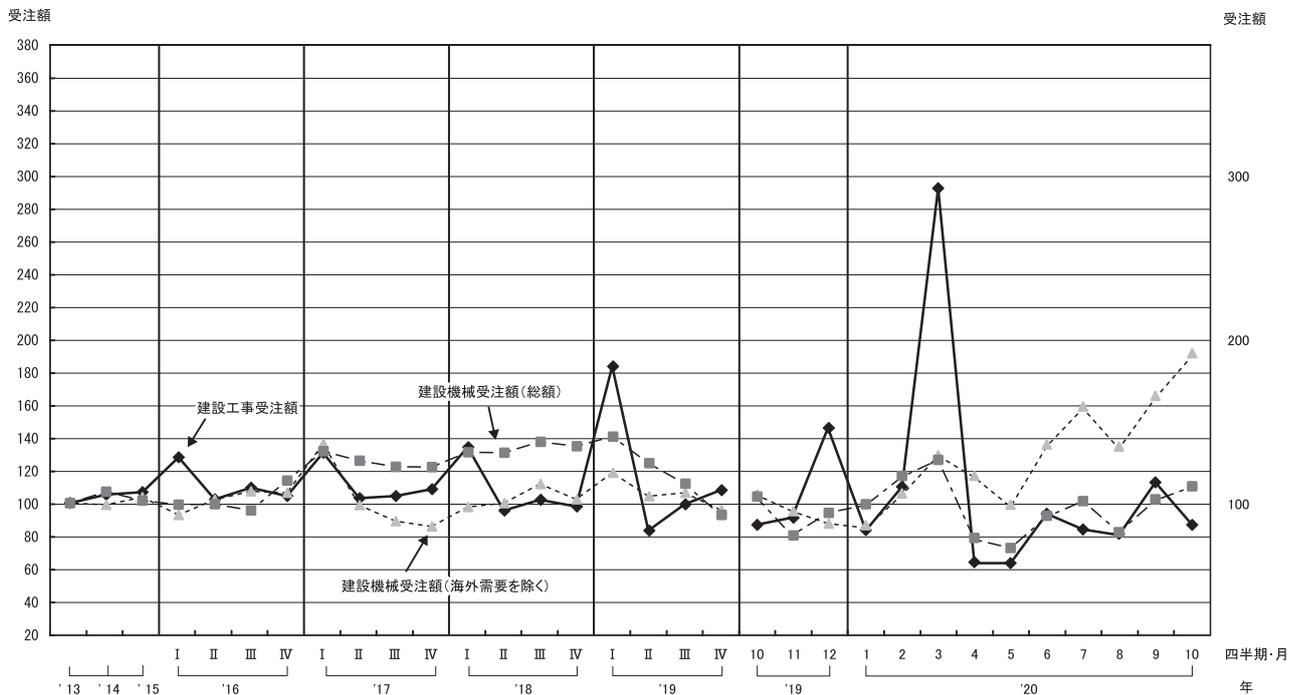
【筆者紹介】

内田 直之（うちだ なおゆき）  
（一社）日本建設機械工業会  
調査部長



建設工事受注額・建設機械受注額の推移

建設工事受注額：建設工事受注動態統計調査(大手50社) (指数基準 2013年平均=100)  
 建設機械受注額：建設機械受注統計調査(建設機械企業数24前後) (指数基準 2013年平均=100)



建設工事受注動態統計調査 (大手 50 社)

(単位：億円)

年 月	総 計	受 注 者 別						工 事 種 類 別		未消化 工事高	施工高
		民 間			官 公 庁	そ の 他	海 外	建 築	土 木		
		計	製 造 業	非製造業							
2013年	132,378	89,133	14,681	74,453	31,155	4,660	7,127	90,614	41,463	129,076	120,941
2014年	139,286	80,477	16,175	64,302	43,103	4,822	10,887	86,537	52,748	138,286	125,978
2015年	141,240	96,068	19,836	76,235	35,633	4,993	4,546	95,959	45,281	141,461	141,136
2016年	146,991	99,541	17,618	81,923	38,894	5,247	3,309	98,626	48,366	151,269	134,037
2017年	147,828	101,211	20,519	80,690	36,650	5,183	4,787	99,312	48,514	165,446	137,220
2018年	142,169	100,716	24,513	76,207	30,632	8,561	5,799	95,252	46,914	166,043	141,691
2019年	156,917	114,317	24,063	90,253	29,957	5,319	7,308	109,091	47,829	171,724	150,510
2019年 10月	9,558	7,314	1,812	5,502	1,674	321	249	6,979	2,579	174,522	9,732
11月	10,034	6,362	1,537	4,825	1,720	383	1,570	6,137	3,897	172,241	11,100
12月	16,113	11,771	2,266	9,504	2,819	880	623	11,353	4,760	171,724	16,276
2020年 1月	9,201	5,889	859	5,030	2,331	363	617	5,443	3,758	171,126	9,299
2月	12,135	8,202	1,743	6,459	3,075	423	436	7,563	4,572	171,571	12,006
3月	32,354	22,796	3,515	19,282	6,807	506	2,244	20,538	11,816	172,841	22,488
4月	7,023	4,434	941	3,493	1,993	542	54	4,437	2,585	177,186	8,282
5月	6,956	4,877	1,404	3,473	1,641	352	85	4,675	2,281	174,405	9,289
6月	10,306	6,725	1,114	5,612	2,971	453	157	5,651	4,655	172,281	12,579
7月	9,241	5,870	1,622	4,248	2,674	449	248	5,703	3,538	172,468	9,311
8月	8,945	6,618	1,032	5,586	1,878	382	66	5,914	3,031	171,851	10,264
9月	12,429	8,684	2,148	6,536	3,235	416	95	8,327	4,102	171,010	13,923
10月	9,550	6,408	1,298	5,109	2,756	395	-872	6,500	3,050	-	-

建設機械受注実績

(単位：億円)

年 月	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	19年 10月	11月	12月	20年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
総 額	17,152	18,346	17,416	17,478	21,535	22,923	20,151	1,487	1,145	1,344	1,420	1,668	1,808	1,124	1,035	1,318	1,446	1,173	1,462	1,577
海外需要	10,682	11,949	10,712	10,875	14,912	16,267	13,277	920	633	873	954	1,097	1,111	629	534	733	859	726	894	1,035
海外需要を除く	6,470	6,397	6,704	6,603	6,623	6,656	6,874	567	512	471	466	571	697	495	501	585	587	447	568	542

(注) 2013～2015年は年平均で、2016～2019年は四半期ごとの平均値で図示した。  
 2019年10月以降は月ごとの値を図示した。

出典：国土交通省建設工事受注動態統計調査  
 内閣府経済社会総合研究所機械受注統計調査